6.2. システム管理者とアカウント -su , useradd , userdel コマンド-

Linux ではシステムを管理するためのスーパーユーザが必ず存在します。スーパーユーザのアカウント名は root（ルート）です。スーパーユーザは、ファイルに設定されているパーミッションに関係なく、システムに対してあらゆる操作が可能です。そのため、スーパーユーザで行う作業は特に注意しなければなりません。うっかり間違ったコマンドを実行したがために、システム全体を破壊してしまう可能性さえあります。スーパーユーザになるためには、root でログインしなおす必要はなく、su コマンドを用いれば事足ります。

```
$ su -
パスワード:
#
```

su コマンドを実行する際には一つ注意点があります。特にオプションを指定せずに su コマンドを実行すると、既存のユーザ環境を転用します。管理者と一般ユーザでは実行するコマンドのいくつかに違いが生じるため、**root でログインした時には使えていたコマンドであっても、「コマンドが見つからない」というエラーを返される**場合があります。既存のユーザ環境に依存せず、完全に指定したユーザ（この場合は root）になりたい場合には、su コマンドにオプションとして“-”をつけて下さい。(“su -”)。そのユーザからログアウトするには exit コマンドを入力します。

```
[root@SL6 ~]# exit
[SL6@SL6 ~]$
```

ユーザを管理するには、ユーザ管理のツールを用います。ユーザを追加するには、useradd コマンドを、ユーザを削除するには userdel コマンドを用います。

```
/usr/sbin/useradd 追加したいユーザ名
/usr/sbin/userdel 削除したいユーザ名
```

なお、userdel コマンドにオプションをつけないでユーザを削除した場合、そのアカウントが所有していたホームディレクトリは削除されずに残ってしまいます。ホームディレクトリごと削除したい場合には、“-r”オプションをつけて下さい（“userdel -r”)。

また、ユーザにはパスワードが必要です。ユーザを作る時点では、パスワードは用意されておらず（useradd 実行の際に同時に作ることも可能）、passwd コマンドを用いて個別にパスワードを設定する必要があります。

```
$ passwd
Changing password for user example.
Changing password for example
(current) UNIX password:    （現パスワード入力）
New UNIX password:    （新パスワード入力）
Retype new UNIX password:    （再度入力）
passwd: all authentication tokens updated successfully.
```

一般ユーザは、passwd コマンドを引数なしで実行することにより、自分のパスワードを変更することができます。

一方、管理者は passwd コマンドに引数として特定のユーザを指定することで、指定した一般ユーザのパスワードを変更することができます。

ただし、あまりに簡単なパスワードである場合には警告が出たり失敗したりするケースがあります。

```
# passwd SL6
Changing password for user SL6.
Changing password for SL6
(current) UNIX password:    （現パスワード入力）
New UNIX password:    （新パスワード入力）
Retype new UNIX password:    （再度入力）
passwd: all authentication tokens updated successfully.
```